

372-456



1200501449036

372

456

事業報告

昭和五年度

岩手縣商工館



始



昭和五年度事業報告

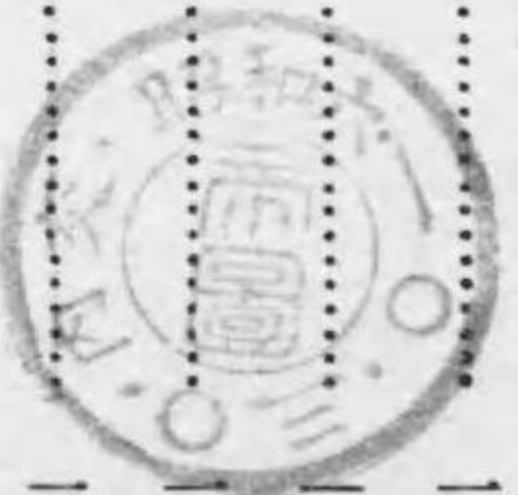
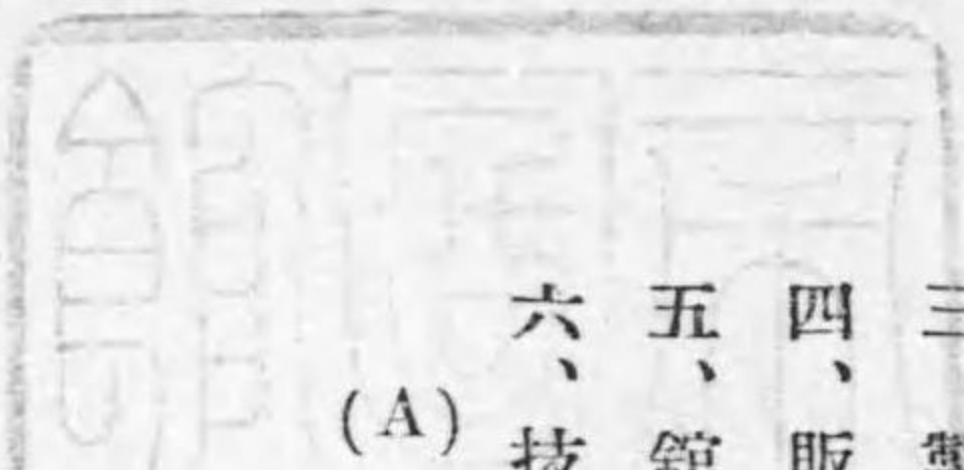
岩手縣商工館

372-456

昭和五年度岩手縣商工館事務報告

目次

一、沿	革	一
二、位置及敷地建物	一	
三、製品ノ改良ト諸會ノ開催	二	
四、販路ノ擴張	三	
五、館舎ノ貸付	四	
六、技術部	四	
(A) 木工科	四	
(一) 桐盆ノ製作ニ對スル刃物及摺漆仕上ノ研究	一五	
(二) 松盆ノ共同作業及乾燥試験	一六	
(三) 標準箆笥ノ改良試作	一七	
(四) スキー試作研究	一七	
(五) 献上衡立ノ謹製	一八	
(六) カゼイン塗料ニヨル變塗研究	一八	
(七) ラツカーエナメルニ依ル型置模様	一九	



874-271

(B) 金工科.....一九

(一) 献上品製作.....二〇

(二) 工藝指導所トノ鐵器共同研究.....二一

(三) 新用途ノ各種鑄鐵器試作.....二五

(四) 耐久的燒型製作研究.....二六

(五) 指導.....二六

(六) 試作合其他.....二九

(C) 染織科.....三〇

(色 染 部)

(一) 地織絹布生地ノ型紙捺染加工試驗及製作見本ノ配布.....三〇

(二) 各種染料ニ關スル配合染色試驗及製作見本ノ配布.....三一

(三) 着尺拔染加工試驗.....三一

(四) 毛皮染色試驗.....三一

(五) 試作品其他.....三三

(機 械 部)

- (一) 縞木綿製織試驗.....三三
- (二) 綿ネル生地製織試驗.....三三
- (三) 「ホームズパン」絨製織試驗.....三四
- (四) 平絹製織試驗.....三五
- (五) 白紬製織試驗.....三五
- (六) 試作品其他.....三六

七、物產陳列所.....三六

(一) 參考品ノ陳列.....三六

(二) 委託品販賣ノ狀況.....三八

(三) 開館日數及參觀人員.....四〇

(四) 意匠圖案改良.....四九

八、現在職員.....五〇

九、昭和六年度岩手縣商工館經常費豫算.....五一

十、昭和六年度特別會計岩手縣商工館作業資金豫算.....五三

十一、諸 規 則.....五五

(一) 岩手縣商工館規程.....五五

(二) 岩手縣商工館處務規程.....五八

(三)	岩手縣商工館傳習規程	六〇
(四)	岩手縣商工館陳列所貸付規程	六三
(五)	岩手縣商工館工作品賣拂手續	六四
(六)	岩手縣商工館機械器具使用規程	六五

一、沿革

本館ハ大正十四年四月從來商工業ノ指導機關トシテ設置シアリタル工業試驗場及商品陳列所ヲ併合シ改稱セ
 ルモノニシテ其ノ前身タル工業試驗場ハ明治九年機業場トシテ設置セラレ傳習生ヲ採用シテ各種織物ノ指導
 並製作ニ力ヲ致シタルヲ明治三十四年其ノ組織ヲ更ヘテ染織講習所トナシ更ニ大正四年染織試驗場ト改稱越
 エテ大正十年四月時勢ノ進運ニ鑑ミ染織ノ外金工、木工、應用化學部ノ三部ヲ併置シテ工業試驗場ト改稱シ
 斯業ノ改良發達ニ努力シ來レルモノナルガ應用化學部ハ大正十四年三月ニ之ヲ廢止セラレタリ又商品陳列所
 ハ明治二十四年六月ノ創立ニシテ物產陳列所或ハ物產館ノ名稱ノモトニ商品ノ改良並販路ノ擴張ヲ目的トシ
 テ當業者ノ指導ニ任シ來リシガ大正十年四月農商務省令商品陳列所規則ニ據リ規程ノ改正ヲ行ヒ商品陳列所
 ト改稱セリ而シテ現在ニ於ケル本館ハ總務部、技術部及物產陳列所（陳列部ヲ昭和四年十一月物產陳列所ト
 改稱）トニ分ケ更ニ技術部ハ金工、染織、木工ノ三科ニ分テリ

二、位置及敷地建物

本館ハ盛岡市内丸ニ在リ市ノ中央ニ位シ要街ニ近クシテ公衆ノ爲ニ極メテ便利ナリ其ノ敷地及建物左ノ如シ

本館	事務室	鐵筋混凝土二階建	二二・三三〇	敷地坪數	一、四九〇・八五七
技術部	（便所物置汽罐室 木材乾燥室ヲ含ム）	鐵筋混凝土平屋	五五・四一〇		
廊下			四二・一一一		
計		全	八二〇・八四一		一、四九〇・八五七

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	四等賞
印	全	全	羽二重黒紋付	全	全	鐵	香	全	全	鐵	花	鐵	香	鐵	一輪
紳						瓶	爐			瓶	瓶	瓶	爐	瓶	差
纏															
全	盛岡市	愛宕村	江刺郡	全	全	全	全	全	全	全	盛岡市	羽田村	盛岡市	羽田村	盛岡市
佐々木文太郎	古館専太郎	達下清輔	種市喜代治	佐々木佐一	佐藤末吉	高橋芳松	大林寅吉	熊谷徳次郎	柳館三藏	澤田圭三	吉岡茂兵衛	及川源十郎	宮浩一	千葉良吾	谷藤剛
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	四等賞
鐵	綸	紹	縞	羽二重友禪染	絹布着尺	平絹着尺	印	羽二重染片側帶	中柄着尺	八ッ橋織	縮	白	生縮	市	縮
紹	子		紬												
金田一村	日西形村	岩泉町	全	小下閉伊村	一西關井町	福二戸町	黒澤尻町	和賀町	水澤町	水澤町	千野寺町	東野町	福二戸町	小山賀村	全
岩崎トミ	佐藤永治郎	八重樫ミノ	邊見イマ	菅原徳治	高屋孫太郎	高橋萬左衛門	佐々木龜雄	阿部清登	小野寺東三郎	關キソ	菊池富治	八重樫リウ	福地嘉吉	針生清吉	佐藤萬二

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	三等賞
茶	汁	金砂塗會席膳	岩手燒菓子器	台燒花	手	羽織肩裏染	染色綿糸	地織縞木綿	縮縮縞襪模様	小瀆黒紋付	蓑セツト	花	鐵	鐵	風呂付茶の湯釜
棚	長														台付灰落傘
火	鉢														
鉢															
盛岡市	荒澤村	二戸町	水澤町	盛岡市	湯本村	盛岡市	盛岡市	盛岡市	宮古町	全	盛岡市	羽田村	全	全	盛岡市
小原龜次郎	小山田傳之助	小掠惣三郎	堀合門次郎	杉村勘兵工	村上善五郎	菅原龜次郎	竹花新太郎	盛岡織物株式會社	島田宗平	鈴木善太郎	及川四郎	水田和吉	照井亦八	中田直次郎	菅原源三郎
全	全	全	全	全	全	四等賞	全	全	全	全	全	全	全	全	三等賞
香	鐵	花	全	鐵	釣	湯	全	木杓	全	和	和	全	桐	御	小
爐	瓶	瓶		瓶	瓶	釜		子		傘	傘		下駄	籠	篋
全	盛岡市	全	羽田村	全	全	盛岡市	盛岡市	御所村	岩手村	花巻町	福江町	岩谷町	江制町	花巻町	黒澤尻町
平館大	齊藤勇	千葉英二	及川春夫	藤澤春治	宮文次郎	鈴木徳之助	常川正雄	米澤歌吉	菊池藤吉	早坂菊右工門	刀根清治	後藤英二	八重樫丹藏	佐藤一二三	藤野哲夫

品名別	銅鐵器	陶器	漆器	染織品	木工品	履物	和傘	竹細工品	雜工藝品	計
四等賞	茶ニボシ	花捲貫町郡	古館彌次郎	女表付下駄	盛岡市	狐崎				
全	黒塗會席膳	衣川澤村郡	佐々木春雄	男表付下駄	全	多田吉太郎				
全	曙塗汁椀	荒澤村郡	齋藤善助	和傘	花捲貫町郡	池田重吉				
全	唐机	盛岡市	中村萬太郎	全	全	島山慶八				
全	桐製長火鉢	久慈町郡	野場百太郎	全	江刺村郡	金野金次郎				
全	松盆	九戸町郡	大清水若松	全	福岡村郡	設樂文質				
全	桑製茶卓	輕米町郡	石田雄次	木	全	船山善作				
全	竹製美濃紙入	花卷貫町郡	柴田文之助	彫刻福ノ神	水澤町郡	橋場右衛門				
全	中	浪打村郡	阿部金治	きくら人形	下閉伊村郡	金子庫三				
全	竹行	西磐井村郡	北德太郎	花卷人形	花捲貫町郡	照井保兵衛				
全	大	鳥海村郡	五串竹細工業組合	こけし人形	全	宮本榮吉				
全	竹行	嚴美村郡	竹細工業販賣組合	雛付柱掛	西磐井町郡	小川金太郎				
全	桐下男駄	石切所村郡	長澤竹一郎	木杓子	盛岡市	米澤繁				
全	桐下男駄	盛岡市	藤澤敬助	全	岩手村郡	天瀬榮作				
全	男下駄	湯本村郡		全	御所村郡					

第四回岩手縣工藝品共進會出品點數及人員調

市別	出品點數	人員點數
盛岡市	240	210
岩手郡	1	1
紫波郡	1	1
稗貫郡	1	1
和賀郡	1	1
膽澤郡	1	1
江刺郡	5	1
西磐井郡	1	1
東磐井郡	1	1
氣仙郡	1	1
上閉伊郡	1	1
下閉伊郡	1	1
九戸郡	1	1
二戸郡	1	1
計	269	238

市別	出品點數	人員點數
盛岡市	240	210
岩手郡	1	1
紫波郡	1	1
稗貫郡	1	1
和賀郡	1	1
膽澤郡	1	1
江刺郡	5	1
西磐井郡	1	1
東磐井郡	1	1
氣仙郡	1	1
上閉伊郡	1	1
下閉伊郡	1	1
九戸郡	1	1
二戸郡	1	1
計	269	238

参考品 三人 三二點
特別出品 一人 三〇點
(2)五月人形ト馬ニ因ル展覽會
玩具(五月人形ト馬ニ關スルモノ)ノ紹介ト其ノ製産ノ獎勵ニ資シ併セテ古來ヨリ天下ニ駿馬ノ産地トシ

テ名聲ヲ博セル南部馬ニ關スル古書畫類ヲ始メ彫刻馬具等ニ至ル迄各方面ノ秘藏ニ係ル珍ラシキ參考資料ヲ蒐集公開シテ畜産家愛馬家ノ參考ニ供スルト共ニ一般公衆ノ觀覽ニ供スルヲ以テ其ノ目的トシ標記展覽會ヲ開催セリ

會場 物産陳列所本館

會期 五月二十四日ヨリ十日間

出品點數 約三千點

(3) 國產品愛用展覽會

國產品ノ發展ノ實情ヲ展示シテ其ノ價值ヲ一般ニ知ラシムルト共ニ舶來品過重ノ因襲ヲ打破シ國產品愛用ノ精神ヲ普及徹底セシメ競フテ之ガ使用ヲナシ以テ國運發展ニ資スル目的ヲ以テ標記展覽會ヲ本館主催ニテ開催ノ豫定ナリシガ縣、盛岡商工會議所、愛國婦人會岩手支部共同主催ニテ本館物産陳列所ヲ會場トシテ大規模ニ開催セラレタルヲ以テ本館ニ於テモ職員舉ゲテ之ニ協力シ其ノ目的達成ニ努メ相當ノ效果ヲ收メタルヲ以テ本館主催ノモノハ之ヲ見合セタリ

會場 物産陳列所

會期 七月二十一日ヨリ七日間

出品點數 一、八一八點

外ニ宮内省ヨリハ畏クモ 聖上、皇后兩陛下、照宮内親王殿下ノ御料國產品九十六點御貸下ゲノ光榮ニ浴シ一般ニ觀覽セシメタルハ洵ニ感激措ク能ハザル所ナリ

(4) ダリヤ展覽會

近時ダリヤノ栽培盛ンニナリツ、アルヲ以テ盛岡市内同好者ノ贊助ヲ得廣ク蒐集陳列シテ其ノ精粗優劣ヲ比較スルノ機會タラシムルト共ニ一般ノ觀覽ニ供スルヲ以テ其ノ目的トシ標記展覽會ヲ開催セリ

時恰モ愛國婦人會岩手支部總會ニ台臨アラセラレタル總裁 東伏見宮大妃殿下本館物産陳列所御視察トシテ成ラセラレタル砌本ダリヤ展覽會ヲ台覽ニ供シ聊カ御旅情ヲ御慰メ申上タリ

會場 物産陳列所本館

會期 九月十二日ヨリ四日間

出品點數 約八百點

(5) 花器陳列會

生花盛花モ今ヤ住宅裝飾物ノ重要ナル域ニ進ミ近時生活ノ向上ト建築法ノ變遷ニ伴ヒ其ノ器物モ調和工夫ヲ凝ラサレツ、アリ依テ縣内生産ニ係ル花器併セテ參考品トシテ縣外生産品ヲモ蒐集陳列シテ之ガ宣傳ニ努ムルト共ニ需要者ノ批評ヲ聽キ以テ生産改善ノ一端ニ資スル目的ヲ以テ標記陳列會ヲ開催セリ

會場 物産陳列所本館

會期 九月二十二日ヨリ七日間

出品點數 約二千點

(6) 生花展覽會

花器陳列會ヲ機トシ廣ク市内各流派ヲ網羅シ其ノ參加ヲ求メ一堂ニ生花ヲ陳列シテ其ノ技ヲ競ヒ斯道獎勵ノ一端トスルト共ニ一般ノ觀覽ニ供スルヲ以テ其ノ目的トシ標記展覽會ヲ開催セリ

會場 物産陳列所本館

會期 九月二十二日ヨリ七日間

出品點數 七三名

(7) 金工品新作品展覽會

縣内生産ニシテ新人ノ力作ニ係ル各種金工新作品ヲ蒐集陳列シテ之ヲ紹介スルト共ニ金工業ノ改良發達ニ

資スルヲ以テ其ノ目的トシ標記展覽會ヲ開催セリ

會場 物産陳列所本館

會期 九月二十二日ヨリ七日間

出品點數 三〇點

(8)ポスター展覽會

新進作家ノ力作ニ係ル各種ポスターヲ蒐集展示シテ之ヲ紹介スルト共ニ斯道ノ參考ニ供スル目的ヲ以テ標記展覽會ヲ開催セリ

會場 物産陳列所本館

會期 十月五日ヨリ二日間

(9)歳末賣出會

歳末歳始ノ家庭用品ヲ陳列シ良品廉賣主義ニ依リ一般需要者ニ供給スルト共ニ縣產品ノ紹介宣傳ニ資スルヲ以テ目的トシ標記賣出會ヲ開催セリ

會場 物産陳列所南館

會期 十二月二十一日ヨリ十日間

參加店 三六店

賣上高 約五千圓

(10)講習會及講話會

隨時各種ノ講習講話會ヲ開催シ或ハ各地ニ於テ催サル、此種會ニ講師ヲ派遣シテ商工業者ノ知識技能ノ啓發ニ資セリ

會名	會期	會催場所	講師
北滿並蘇州聯邦ニ於ケル經濟講演會	六月十二日	本館樓上	哈爾商品陳列館長
羊毛加工講習會	九月九日ヨリ八日間	本館	森御蔭氏
鑄金講習會	二月七日ヨリ六日間	全館	全館職員
羊毛加工講習會	三月廿九日ヨリ三日間	岩手郡澁民村	全
商工展出品ニ關スル懇談會	三月二十五日	本館	商工省今村屬

四、販路ノ擴張

本縣生産品ノ販路擴張並紹介ニ關シテハ當時物産陳列所ニ於テ委託販賣ヲ行ヒ新規製品ノ試賣ト縣内名產品ノ紹介ニ努ムルノミナラズ更ニ進ンデ縣外各地ニ於テ開催サル、博覽會共進會陳列會等ニハ常ニ當業者ノ出品ヲ勧誘シタルガ今其ノ主ナルモノヲ舉グレバ左ノ如シ

(1)第十七回商工省工藝展覽會

會期及會場 五月十日ヨリ二十日間於東京市 六月二十日ヨリ十四日間於大阪市

出品種類 鐵器類外三種類

出品人員	出品點數	合格人員	合格點數	二等	三等	褒狀
三四	七九	一七	二四	一	一	四

(2)全國家庭工業品展覽會 (岡山市)

會 期 四月五日ヨリ十六日間
出品種類 鐵器類
出品點數 八四點

(3) 全國土產品展覽會 (倉敷布)

會 期 四月八日ヨリ五日間
出品種類 鐵器類
出品點數 四〇點

(4) 公立陳列所聯合全國特產品陳列大會 (福井市)

會 期 四月二十一日ヨリ二四日間
出品種類 鐵器類外六種類
出品點數 四二七點

(5) 副業農藝品展覽會 (名古屋市)

會 期 六月十五日ヨリ十日間
出品種類 玩 具
出品點數 一四點

(6) 國產獎勵第一回東北六縣工產物品評會 (弘前市)

會 期 九月十八日ヨリ七日間
出品種類 鐵器類外十一種類
出品點數 一〇八一點

(7) 全國特產品陳列會 (仙臺市)

會 期 十一月一日ヨリ七日間

出品種類 鐵器外二種類

出品點數 一五四點

(8) 十月九日ヨリ十五日迄秋田市ニ於テ開催ノ第五回東北六縣工藝品競技會ニハ縣ニ於テ參加シ又三月十五日ヨリ濱松市ニ於テ開催ノ全國産業博覽會ニ對シテハ縣出品協會ニ於テ參加シタルガ本館ニ於テモ協力シテ之ガ出品ヲ勸誘シ且ツ職員ヲ派遣シテ陳列裝飾等ニ當ラシメタリ其他各地ニ於テ開催ノ博覽會共進會展覽會陳列會等ニ夫レ々出品ヲ勸誘セリ

五、館舍ノ貸付

産業教育等各種ノ施設ニ對シ館舍ヲ貸付セルコト左ノ如シ

會 名

期 間

小 鳥 品 評 會
橋本八百二氏個人展覽會
光友會寫真展覽會
新日本拓殖博覽會
素 願 社 展 覽 會
國 產 愛 用 展 覽 會
唐武氏寫真個人展覽會
發明獎勵國產愛用展覽會

四月九日ヨリ二日間
全月二十一日ヨリ五日間
五月二十四日ヨリ三日間
全三十日ヨリ二四日間
六月二十八日ヨリ五日間
七月二十一日ヨリ七日間
九月十三日ヨリ五日間
全月二十二日ヨリ七日間

ラヂオ展覧會	十月二日ヨリ三日間
文化展覧會	全月五日ヨリ二日間
衛生展覧會	全月十日ヨリ五日間
白楊會洋畫展覧會	全月十七日ヨリ三日間
七光社素顔合同洋畫展覧會	全月二十八日ヨリ七日間
菊花品評會	十一月六日ヨリ五日間
岩手郡副業品評會	全月十一日ヨリ三日間
家禽品評會	全月十四日ヨリ三日間
クレオン畫展覧會	全月十八日ヨリ三日間
俵米品評會	全月二十五日ヨリ三日間
テンペラ畫展覧會	一月十七日ヨリ三日間
刻土社展覧會	二月二十日ヨリ三日間
出口氏繪畫展覧會	三月十五日ヨリ三日間

六、技術部

技術部ノ木工、金工、染織ノ各科ニ於テハ夫々試験研究ヲ行フト共ニ指導獎勵ニ當レルガ其ノ事業概況左ノ如シ

(A) 木工科

(一) 桐盆ノ製作ニ對スル双物及摺漆仕上ノ研究

所要ノ材ヲ輓轆ニテ中央凹圓ニ削リ底部ノ仕上ヲナシタル後別ニ機械ヲ替ヘS形ナル双物ノ回轉ニヨリ圓外ヲ荒削シ更ニ双物ヲ取替ヘテ其ノ部分ヲ中仕上シテ機械ヨリ取外シ凹圓底部ト均一ナラシムルニ緣ト共ニ更ニ手鉋ニヨリ最後ノ椽地ノ仕上ヲナシタリシガ本年度ハ機械ノミニヨリ底部ト縁トヲ同時ニ中仕上シ得ル双物ヲ考案シ之ニヨリ實驗シタルニ作業能率ヲ數倍増スヲ得タリ而シテ出來上リタル椽地ノ塗仕上ハ左ノ方法ニヨリ摺漆ヲ行ヒタルニ結果良効ナリ

本縣ニテ行フ摺漆法ハ下地トシテ主トシテ柿澁液ヲ用ヒ其ノ上數回ニ亘リ漆ヲ施シ居ルモ元來桐材ハ木材中其ノ木質最モ柔軟ニシテ隨ツテ其ノ木口ハ吸水量多ク下地トシテ柿澁液ヲ塗布スルトキハ澁本來ノ色素ノタメ黒味ヲ帶ビ更ニ其上漆ヲ施ストキハ却ツテ黒色ヲ増シ桐材特有ノ年輪ノ妙味ヲ表ハスコト出來難シ茲ニ於テ明快ナル色調ト鮮明ナル年輪美ヲ表ハサントシ各種ノ下地ト其摺漆法等ニ付試驗ヲ行ヒタルニ其ノ中「カゼイン」下地ハ最モ目的ニ近キ色調ヲ表ハシ得ルニ至レリ

其ノ方法ハ先ヅ白椽地ノ木口面ニ〇號「グラス、ペーパー」ニテ充分磨キ水ニ溶解シタル砥ノ粉ヲ目留トシテ塗リ半乾キ後古木綿ニテ清拭シ其乾キヲ待ツテ後「ウヅクリ」ヲカクル

次ニ「ウヅクリ」埃ヲ除キ「カゼイン」五瓦ニ對シ水百瓦ノ割合ノモノニ「アンモニア水」又ハ明砂ノ少量ニテ溶解シ之ヲ刷毛ニテ塗リ一回毎ニ乾カシテ二三回塗ル次ニ「カゼイン」下地ノ充分乾キ次第ニ透中塗漆ヲ「テレメン」油ニテ極テ薄ク溶カシテ之レヲ漆刷毛ニテ摺込ミ木綿ニテ輕ク拭キトリ一回毎ニ風呂ニテ乾カシ斯クスル事三回反覆シ最後ニ朱合漆ヲ「テレメン」油ニテ溶カシ「タンボ」摺ヲ行ヒ乾カシテ仕上トナス

(二) 松盆ノ共同作業及乾燥試驗

松盆ハ赤十字社岩手支部總會ノ記念品トシテ六千枚ノ數量ヲ轉輸業者ガ製作ヲ依頼セラレタルモノナルガ業
者ハ未ダ斯ク大量ノ製品ヲ而モ短期間ニ於テ製作シタル經驗ヲ有セザルタメ本科ニ其ノ製作ノ指導並ニ共同
製作ヲ懇請スルニ至レリ本科ハ此機會ニ於テ技術上ノ實地指導ハ勿論兼テ共同作業ニヨル生産能率並ニ各自
ノ聯絡統制ノ實驗ヲ試ミントスル意圖ヲ有シ居ルヲ以テ直チニ其ノ請ニ應ジタリ松盆ノ仕上及形狀ハ徑三十
一糎厚サ二糎ノ圓形ニシテ圓内ニハ太サ六糎ノ「リード」狀ノ輪紋二十三筋ヲ列リ仕上ハ春慶色ノ摺漆トナ
ス

先ヅ以上ニ要スル松材ハ無節ニシテ巾三十三、五糎、厚二、五糎ニ定メ長サ任意トシ之レガ所要材ノ數量ノ購
入手配ヲナシタルモ當時ニ製板サレタルモノニハ以上ニ該當スルモノ極メテ少ク止ムヲ得ズ伐採直後ノ松材
ヲ製材シタルタメニ長サ一米、九〇糎内外ニシテ一枚ノ重量百斤内外ノモノノアリ而モ時恰モ梅雨季ニシテ
板ト板ト接觸スレバ忽チニシテ微ヲ生ジ易ク到底短期間ニテ屋外ノ乾燥ハ不可能ニ付本館設備ノ乾燥室ヲ用
ヒ乾燥ノ程度及ビ其ノ燃料費等ニ付實驗ヲ試ミツ、乾燥ヲナシタリ

本館ノ乾燥場ハ「ボイラー」室ト乾燥室トノ二室ヨリ成リ一室ニハ高サ二米一糎ニ直徑、七五糎ノ「バーチ
カルボイラー」ヲ据付焚口ハオガ屑燃焼器ヲ裝置シタルモノナリ
又乾燥室ノ内部ハ二米一二糎四方ニシテ高サハ床上ヨリ軒廻リマデ二米アリ又床下ハ六五糎アリ而シテ床上
ニハ「ボイラー」ヨリ數十本ノ蒸氣管ヲ通シ床下ハ又「ボイラー」ヨリ徑、二〇糎ノ燃焼煙管ヲU字形ニ通
路セシメ室内ハ之等各管ノ蒸氣熱並ニ燃焼煙熱ヨリノ放射熱ニヨリテ室内ヲ温メラレ而シテ室内ノ溫度ハ床
下中央ニ裝置シアル扇風器ニヨリテ循環シ又材料ヨリノ發散濕氣ハ屋上中央ニ裝置シアル排風器ニヨリ排氣
調節セラル、乾燥裝置ナリ

以上ノ如キ乾燥場ノ乾燥法ハ室ニ入り得ル製材當時ノ長サノ板ヲ入レ板ト板トノ間ニ棧木ヲ差込ミ室内濕氣
ノ流通ヲ良効ナラシムルト同時ニ板自体ノ重量ニヨリ板ノ反リヲ防ギツ、乾燥セシムル方法ト次ニ最初ヨリ

圓形ニ木取リ板相互ノ端ノ積ミ重ネニヨリ反リヲ防グト同時ニ板ト板トノ室内溫度ノ流通ヲ良効ナラシメテ
乾燥スル方法トノ二法ヲ行ヒタリ

右ノ二方法ニ要スル溫度ハ平均華氏ノ百八十度ニ上昇セシメ之レガ二方法ノ得失ヲ比較スルニ第一法ハ四晝
夜半ニシテ未ダ十分ナル乾燥ヲナサレ雖板面ニ龜裂等生ズルコト殆ンドナク且ツ製作後ニ於テモ反張狂ヒ
ノ數少シ但シ乾燥室ニハ無駄ナル部分モ入り且ツ轉輸作業ニ際シ逆目起キル缺點アリ

第二法ハ乾燥率著シク三晝夜半ニシテ三〇乃至三五%ノ重量ヲ減ジ巾ニ於テ二糎内外ノ急激ナル收縮ヲナス
ガ故外氣ニ觸ルレバ其ノ幾部再ビ膨脹ヲナシ且ツ龜裂ヲ生ズルモノ數多シ但シ乾燥時間ト燃料ノ經濟ニ有利
ニシテ且ツ轉輸作業ニ際シ又物ノ切味良シ

以上ノ如ク各得失アリテ詳細ノ研究ヲ俟タザレバ其良否ヲ判別スルコト至難ニ付次回ニ於テ更ニ之ヲ試ミン
トス

(三) 標準箆筒ノ改良試作

本縣ノ木製家具類中最モ生産額ノ多キモノハ箆筒ニシテ而モ家具類中一般的ニハ稍々規格モ統一セラレ居ル
モ未ダ各自個々ノ製品ヲ同一場所ニ併列スルトキハ其ノ寸法ヲ異ニスルモノアリテ需要者ニ不便ヲ感ゼシム
ルノミナラズ材料ノ共同購入、製品ノ共同販賣等ニ幾多ノ不便ヲ感ズルコトアリ故ニ之レガ第一ニ標準寸法
ヲ定メ之レニヨリ製品ノ規格統一ヲ圖ルトキハ凡テノ點ニ於テ合理的方法ヲ講ズルコトヲ得隨テ現在ヨリ製
品ニ改良ヲ加ヘ其ノ生産額ヲシテ益々増額セシムルヲ得ベシ故ニ本科ニ於テ之レガ改良試作ニ着手シツ、ア
リ

(四) スキー試作研究

近年雪國ノ冬季ノ運動具トシテ「スキー」ノ需要著シク勃興シ今ヤ「スキー」ハ運動具トシテ一部ノ需要ア

ルニトマラズ一般民衆ニ實用化セントシテ益々其ノ需要大ナラントスルノ状態ニアリ而モ本縣ノ如キ木材ノ豐富ナル土地トシテハ之レガ製作ノ消化ハ木材處理上最モ有利ナル方法ニシテ本科ハ之レガ將來ノ有望ナルニ鑑ミテ其ノ製作研究ニ着手シタリ、然レ雖本年度ハ材料ノ種類及其ノ製作準備ノ整ハザルニヨリ充分ナル研究ヲナスコト能ハザリシモ其ノ數十臺ノ製品ハ最初ノ試作トシテハ一般ニ好評ヲ受ケタレバ更ニ次年度ハ大量的ニ之レガ續行研究試作ヲ行ハントスルモノナリ

(五) 献上衝立ノ謹製

愛國婦人會岩手支部ヨリノ依頼ニヨリ總裁 東伏見宮大妃殿下ニ献上スベキ桐製衝立ヲ謹製シタリ寸法總高一米六四厘巾一米五四厘、左右ノ臺足ニテ支持シ表面ニハ巾一米二〇厘、高五〇厘ノ額ヲ付ケ其ノ内部ニ色紙短冊ヲ差シ出シノ出來得ル様考案シタリ而シテ材料ハ椽及臺足ハくるみ材ニシテ内部ノ表裏桐ノ柃目ヲ用ヒ腰部ハ桐ノ木口ヲ波文狀ニ應用シタリ

(六) カゼイン塗料ニヨル變塗研究

簡單ナル塗工法ニヨリ家具類ニ種々ナル變塗模様ヲ施サントシテ最初「テツキス」ヲ塗工應用シタルニ模様ハ自由ニ表現シ得ルモ之レヲ常ニ液体ニ觸ル、卓子類ノ平面ニ應用シタルニ防水ニ乏シキ缺點アルヲ認め故ニ之レガ代用トシテ「カゼイン」塗料ノ塗工應用ノ研究ニヨリ稍其ノ目的ヲ達スルヲ得タリ
先ヅ胡粉六〇瓦ヲ水百瓦ニ膠五瓦ヲ溶解シタルモノニテ充分ニ練合セ之レヲたんぼニ付テタ、キヲ行ヒ凹凸ヲ作ルト共ニ種々ナル模様ヲモ作ル、而シテ充分乾燥後ホルマリソ液ヲ約十倍ノ水ニ稀釋シタル液ヲ其ノ表面ニ塗布シ防水性ヲ有セシム次ニ各色「カゼイン」塗料ヲ其ノ上ニ塗布シ更ニ又其ノ乾キタルヲ待チテホルマリソ液ハカゼイン塗料ヲ施ス毎ニ其ノ上ニ塗布防水性ヲ有セシム

而シテ其表面充分乾キタル後水ベイパーニテ研キ最後ニ光澤ヲ出シタルニ白ラツク又ハ無色ラツカト塗布シ仕上トス

(七) ラツカトエナメルニ依ル型置模様

色漆ニ對シテ「ラツカトエナメル」ハ自由ニ二色調及模様ヲ表ハシ易ク且ツ其ノ操作簡單ニシテ且ツ廉價ニ製出スルヲ得ルヲ以テ其ノ方法ヲ試驗シタリ
型置ニ使用スル「ラツカトエナメル」ノ調合ハ顔料五、ニ對シ白陶土一〇ノ割合ヲ以テ混ジ夫レヲ「ラツカト」ニ十分ニ練合セ普エナメル濃度ヨリ稍々堅目ニス
型置ノ方法ハ所要ノ模様ヲ澁型紙ニ切抜キ之レヲ器物ノ表面ニ當テ其ノ上ヲ篋ニ「ラツカトエナメル」ヲ付ケ型紙ノ表面ヲナデル
其ノ際模様ハ赤、青、黄、色等各異ナル色調ヲ欲スルモノナルトキハ型紙モ各色別ニ切抜型置ヲ行フ
斯クシテ型置シタル模様ハ乾燥スルニ從ヒ稍々光澤ヲ失フガ故ニ最後ニ一二回透明「ラツカト」ヲ塗布スルトキハ光澤ヲ生ジ且ツ顔料ノ褪色ヲ防ギ模様ヲシテ一層堅牢ナラシム

(八) 試作品其他

- 試 作 品 一七一點
- 作 業 製 品 一、五、四三點
- 實 地 指 導 六三件
- 質 疑 應 答 八七件
- 圖 案 設 計 四五點
- 機 械 使 用 回 數 七二回

(B) 金 工 科

(一) 献上品製作

秩父宮殿下ニハ騎兵隊御見學ノ爲、又閑院宮殿下ニハ赤十字社岩手支部總會ニ台臨ノ爲本縣ニ行啓アラセラレタル際本縣知事ヨリ献上スベキ鐵製花瓶ノ製作ヲ金工科ニ下命アリタルヲ以テ之ヲ深く光榮トシ一同齋戒沐浴シテ謹製セリ

(1) 秩父宮殿下ノ献上品

型 態 エトルスキ型 高サ 一尺二〇 最大直徑 九二
模 樣 表面ノ模様ハ古代風ニ南部地方馬市ノ情景ヲ帶狀ニ薄肉ニ押シ浮カシタリ
從 事 者 吉川 技 手 圖 案

工 程 砂子澤技手補 鑄型製作
鑄込及仕上ハ小森、宮工手外全員之ニ當ル
七月二十三日ニ木型切リテ開始シテヨリ荒引模様押、肌付、型焼、中子込、ダキ掛、鑄込、仕上等ノ各工程ヲ經八月二十日完成ニ至ルマデ二十九日間ヲ要シタリ

製 作 費 花瓶仕上リ重量ハ二貫六百匁ニシテ外ニ漆塗臺ヲ附シ帛紗(富士絹)ニテ包ミ之ヲ桐製箱ニ容レ絹紐ニテ結ビ總製作費ハ金壹百圓ヲ要シタリ

(2) 閑院宮殿下ノ献上花瓶

型 態 エトルスキ型 高サ 一尺二〇 最大直徑 九七
模 樣 表面ノ紋様ハ熊谷草ヲ唐草風ニ表シタリ是當縣早池峰山ノモノ最モ著名ナルニ依テ採

從 事 者 擇シタリ
吉川 技 手 圖 案
砂子澤技手補 鑄型製作

工 程 鑄込及仕上ハ工手全員之ニ當ル
九月六日製作ニ着手以來前項ノ場合ト同様ノ順序ヲ經テ九月二十日完成ニ至ル迄二十日間ヲ要シタリ

製 作 費 花瓶仕上リ重量ハ二貫八百匁ニシテ外ニ漆塗臺ヲ附シ帛紗(富士絹)ニテ包ミ之ヲ桐製箱ニ容レ絹紐ニテ結ビ總製作費壹百圓ヲ要シタリ

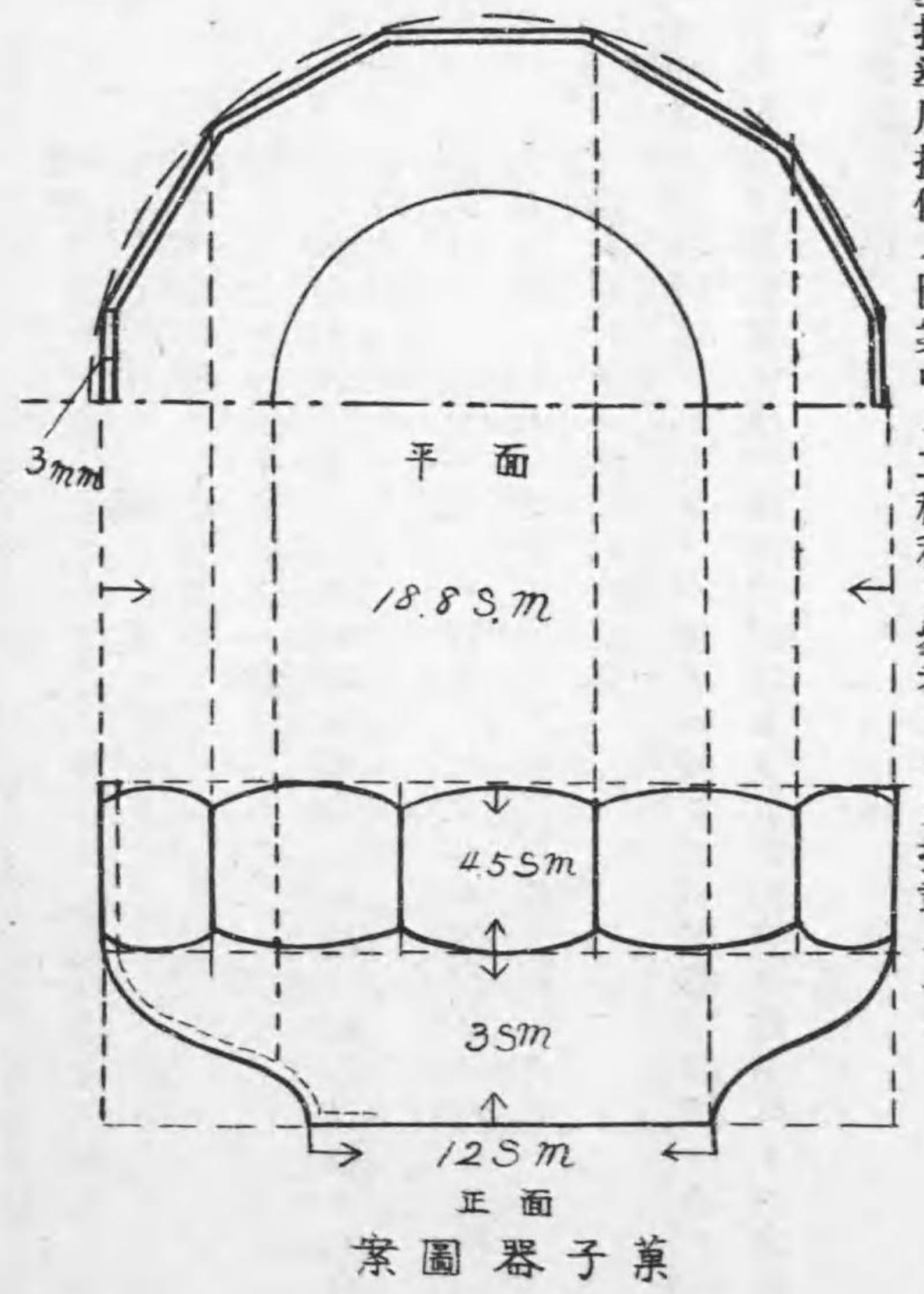
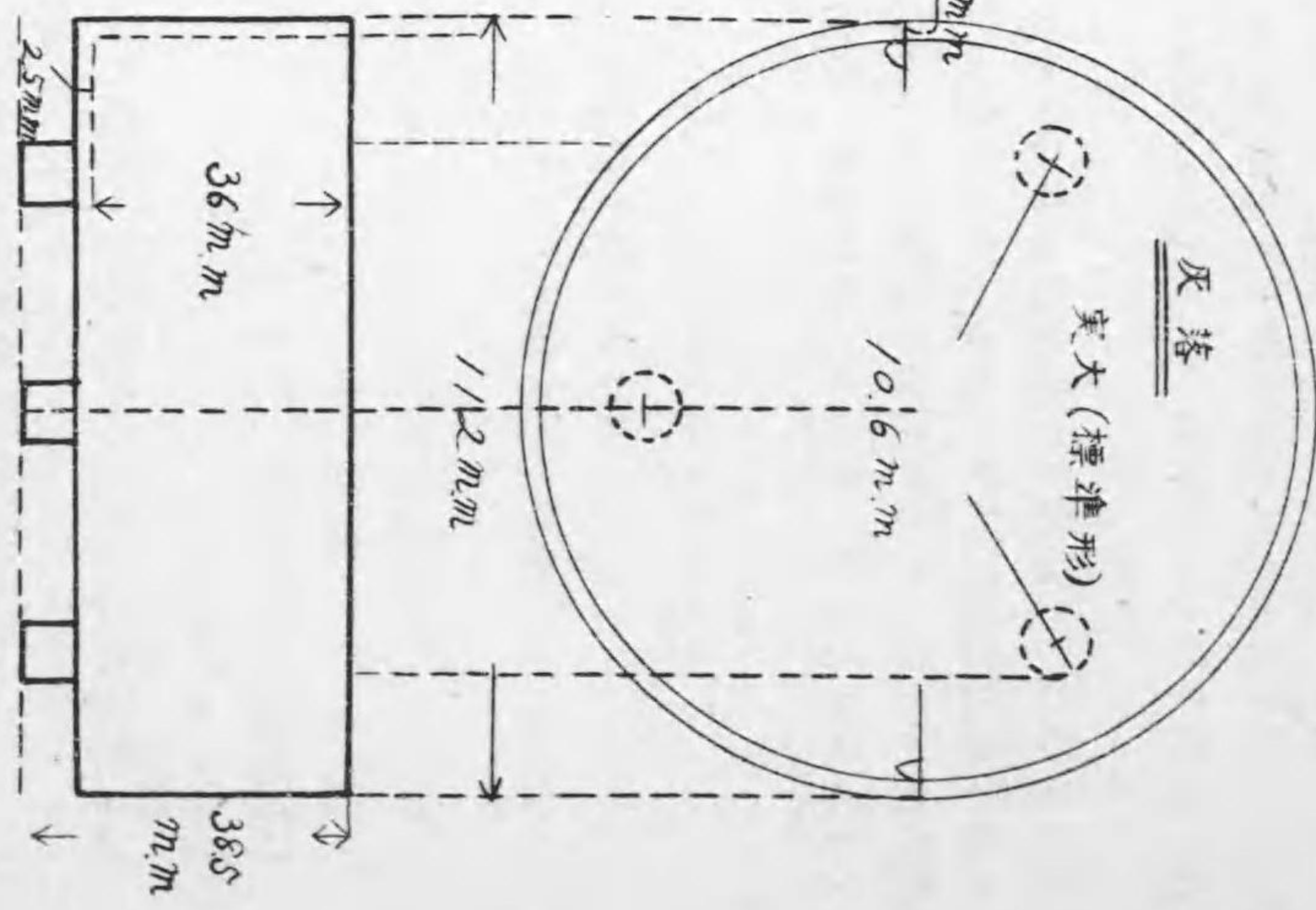
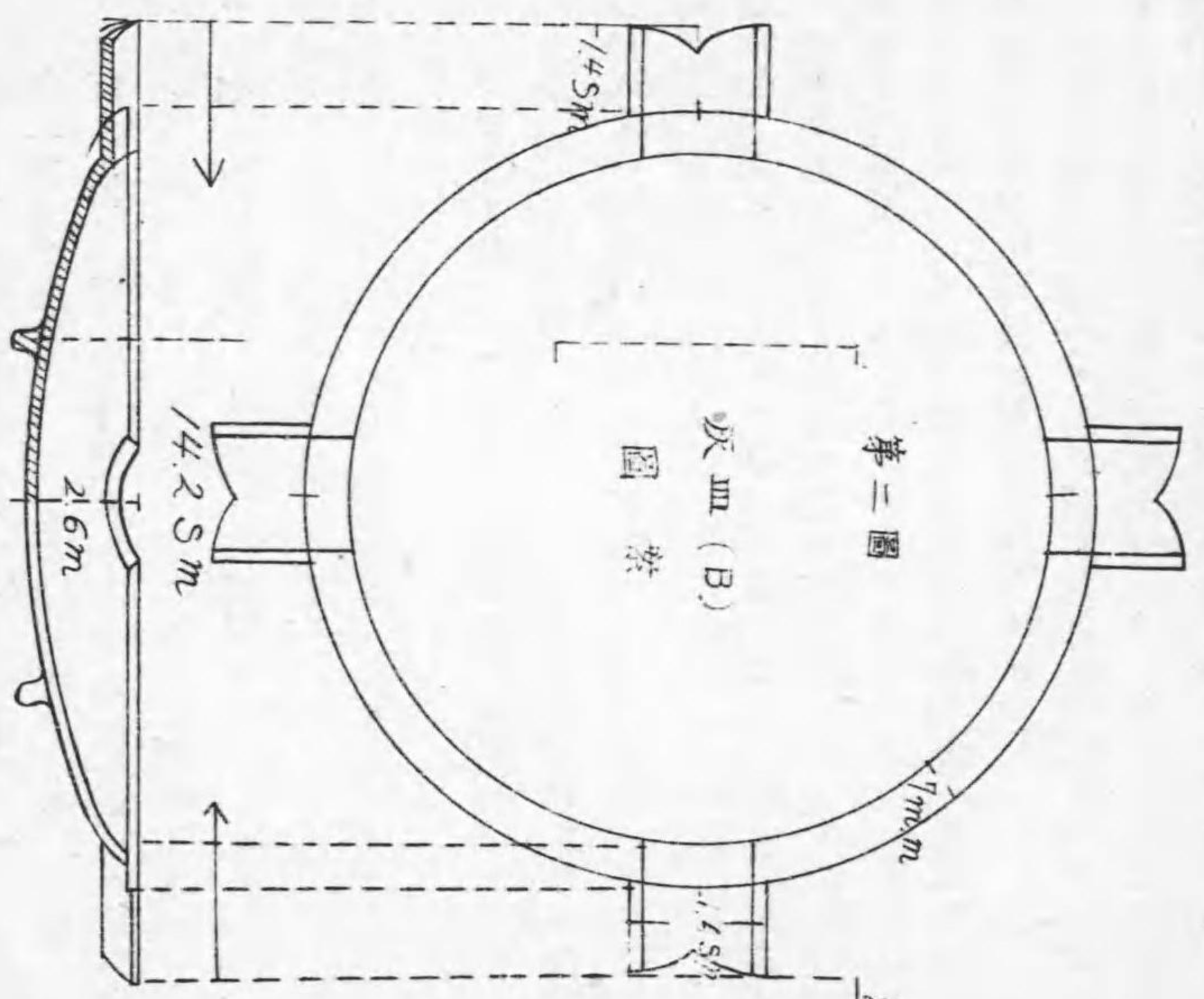
(二) 工藝指導所トノ鐵器共同研究

本縣金工業改良發達上試験研究ヲ必要トスル事項ニ就キテハ工藝指導所ニ於テモ可及的援助ヲ與ヘラル、コト、ナリ昭和五年度ヨリ適當ナル研究課題ヲ選擇シテ共同研究ヲ爲スコト、ナレルガ左ニ本年度ニ於ケル概要ヲ列記スヘシ

(1) 鐵器加工着色ノ試験及試作

本試験ハ工藝指導所側ニ於テ圖案ヲ製作シテ當館ニ送致シ是ヲ實材化シテ更ニ加工、着色ノ試作材トシテ指導所是ニ加工、着色ノ法ヲ研究試作スルモノナリ、而シテ工藝指導所ヨリノ要求ニ依リ加工、着色ノ試作材料トシテ本館ニ於テ製作送付セル品名、個數等左ノ如シ

- | 番號 | 品 名 | 個 數 | 試 作 目 的 |
|----|-------------|------|------------------|
| 1 | 角型平板(四寸五分方) | 一〇〇枚 | 着 色 |
| 2 | 小型 鐵 瓶 | 三個 | 模様ノ一部ニ象嵌ノ試作材 |
| 3 | 霰肌小型鐵瓶 | 三個 | 霰肌ヲ型起シトナス試作材ナランカ |



9	8	7	6	5	4
菓子器	灰皿 (B)	灰皿 (A)	落	花瓶 (B)	花瓶 (A)
五個	五個	五個	一個	一個	一個
全	全	全	全	全	着色
全	全	全	全	全	圖案ハ指導所ノ提供ニカ、ルモノナリ

工藝指導所提供ノ圖案中ノ二種程ヲ參考トシテ掲載スベシ

以上ノ製品ニ對シテ試ミントスルモノハ

加工方法	試作材料
1 削紋様	簡便ナル方法(機械力等)ニテ容器等ノ表面ニ削紋様ヲ表ハス 試作材料ハ角 平板、灰皿
2 メッキ	容器ノ内部等ニ鍍金等ヲ施ス 試作材料ハ菓子器
3 七寶	容器ノ外面等ニ 賞牌、鐵瓶(於商工館試作)
4 象嵌	全
5 型起	全 (霰型) 鐵瓶
着色	鐵瓶
1 ラツカー仕上	火力ヲ使用セザル器物 角平板、灰落
(透明、不透明)	施色シテ見付ヲ賑ハス(最モ置物、賞牌等ニ適スベシ)

○右試験ハ繼續中ニ屬シ未ダ完成スルニ至ラザルヲ以テ其ノ成績ハ後年度ニ於テ報告スベシ

(2)鐵器ノ意匠圖案ニ就キテ

南部鑄物ト云ヘバ主トシテ茶ノ湯釜、鐵瓶ノ類ニシテ茶ノ湯釜ハ本來點茶式ノ法則ニ從フベキモノナレバ嶄新ナル型態上ノ改良ハ無暗ニ施シ難キ點アレドモ、鐵瓶ニ於テハ日常生活様式ニ順應シテ改良セラレタル意匠圖案ニナルモノハ一般衆目ヨリノ歡迎ヲ受クル所アリ又近年南部鐵鑄物ノ鑄造範圍モ擴大セラレ湯釜、鐵瓶以外ノ鑄鐵小物ハ多種多樣ニ著シク生産ヲ増シ來レル情况ナルヲ以ツテ是ガ意匠圖案ノ研究指導ハ最モ緊要ノコトナリ

即チ向後工藝指導所ヨリ時々圖案設計ノ配布ヲ受ケ、當館ニ於テ是ヲ金工品ニ實体化シ、ソノ製作工程、經費等ヲ研究シテ是ガ最モ適當ト認メタル作品ヲ當業者ニ紹介、商品化セシムル計畫ノモノナレドモ右ハ相互ノ都合ニヨリ昭和六年度ヨリ實現スルコトトナリタリ

(3)海外輸出ヲ目的トシタル圖案ニ就キテ

海外向キノ工藝製作品ニ對スル圖案、意匠ニ就キテハ是マタ工藝指導所モ考究中ノモノナルニ依ツテ其ノ指導ニマツモノトシタルモ大体ニ於テ圖案、意匠ノ製作方針ハ二方ノ眼目ニヨルヲ知ルベキナリ、即チ

(A) 海外需要國ノ調度器具ニ意匠ヲトルモノ
(器物ノ用途ヲ國外品ノマ、トシテ型態模様ニノミ日本的、或ハ東洋的趣トナスモノ、或ハ全然ノ模倣品製作)

(B) 純然タル日本固有乃至東洋ノ意匠ニ依ルモノ
(用途ヲモ型態ヲモ何等海外ノ事情ヲ考慮セズ日本品其ノモノヲ輸出品トスルモノニテ用途ハ海外人ノ利用、撰擇ニマカセルモノトス是反ツテ海外人ニ對シテ獵奇心ニ投ジ、異國の感興ヲソ、リ販賣効果ヲミルヲ信ズ)

(三) 新用途ノ各種鑄鐵器試作

- 一、鉢カバー
各面同一紋様ヲ有スルモノ、或ハ各面紋様ヲ異ニスル四角形ノモノハ各面ヲ生型等ニテ起シ接合組ミ合セテ經費ノ節減ヲ計圖ス
原型ハ臘、繪杖併用ス
- 二、菓子器
内部ヲ鍍金等ニテ裝飾シ食餌容器トシテ美觀ヲ増サシム
- 三、釘カクシ
「ナゲシ」用釘カクシニテ能面ヲ鑄出シタリ又柱掛ケトナセバ小土産物トシテ好評ナリ

四、新型鐵瓶

特ニ「ストロブ」用トシテ意匠ヲ洋風ノ部屋調度ニ適合セシメ其ノ底部ノ平面部ヲ大ニシテストロブノ面ニ接スル部ヲ擴大シ安定ヲ増シ熱ノ傳導ヲ大ナラシメタリ

五、寶石入籍

純美術的製作品トシテ實用ト美術ヲ兼ネタルモノニ透模様ヲ施シタリ

六、燈籠

置場
ポスト
掛額
賞牌ノ類

右ノ如キモノノ新用途ノ製作品ノ考案ニ努力シタルニ當業者ニソノ影響ヲ見タルハ欣快トスルトコロナリ

(四) 耐久的燒型製作研究

本研究ハ本年度以降ニ渡ツテ完成スルマデノ繼續事項ニシテ現ニ試驗研究中ニ屬シ未ダ完成ヲ見ルニ至ラザルヲ以ツテ其ノ成績ハ後年度ニ於テ報告スベシ

(五) 指導

(1) 鑄金實地講習

主催 盛岡市圖書手工研究會
會場 岩手縣商工館
出席者 市内各小學校教員一校ヨリ二名宛外部二名

指導擔當者

當館金工科員全部

取 材

鐵鑄物(壺型) 高サ三寸七分最大直徑五寸一分
全部同一型態ニテ繪模様ハ各自ノ自由ニ表現セルモノ

右ハ出席者全部教職ニ在ルモノニシテ鑄金思想ノ宣傳乃至ハ鑄金術普及上最モ地方産業ニ對スル理解ニ資スルトコロアルニ依リテ鐵鑄物ノ工程、及南部鑄工略記及縣下ノ生産概況ヲ印刷セル冊子ヲ配布ノ上ニ實地指導ヲ行ヒタリ

工 程 日 誌

二月五日 荒引ヲ開始シテ準備ス

七日 引上、模様付ケ(講習員一同ニ實地施行セシム)

八日 模様付、肌ウチ、型燒

九日 型燒、ケド打チ、トカタ、中ゴクルメ

十日 ダキ掛ケ、油煙カケ、入込、鑄造、中ゴ落シ

十一日 仕上、着色

十二日 内部エナメル仕上(完成)

(2) 第一回 大理石彫刻講習會

大迫町役場主催

會 場 大迫小學校

開 期 昭和六年二月二十一日ヨリ二十七日迄

出席講習員 三十五名

大迫町、達曾部村、十二鎗村、大迫小學校生徒

本講習會ハ上閉伊郡達會部村ヨリ大理石採掘移出ヲ見タルヨリ農村ノ副業トシテノ見地ヨリ大理石破片利用ノ小物彫刻ノ技ヲ授ケテ生産ニ向上セシムル素地トナスガ目的ノ催シナリキ、小學校生徒ノ一部ニハ懇望ニヨリテ木彫ノ初步ヲ授ケタリ

本講習ハ十種ノ圖案ヲ提供シテ完成ヲ見タルモノ五名五種ニワタリ、木彫ハ三種ノ圖案ニ從ヒテ丸彫一、平肉二種ヲ彫刻シタリ、石材ハ金龍石(地方呼稱)ノ縞大理石ニテ、大理石トシテハ硬質ニ過ギ理多クシテ仕事至難ナレドモ練磨ニヨリテハ上達スルコトヲウルヲ窺知シタリ用具モ、本館ノ提示シタルモノニテ俄ニ製作用意ノ事情ニテ不備多カリシニ好成绩裡ニ本縣下ニ於テ嚆矢ヲナシタル石彫講習ノ完了ヲ見ルヲ得タリ

(3)金工座談會

金工科主催ニテ本年度ヨリ座談會ノ名稱ノモトニ當業者ト官廳及各方面ヨリノ會合ヲ得テ意見交換ノ機會ヲ作りテ數次是ヲ開催セリ

(4)米國ニ鐵器見本送付

金工科ハ盛岡地方産ノ鐵器ヲ海外ニ宣傳スルノ要アルヲ認メ先ヅ米國ニ其ノ見本ヲ送致シ新販路開拓ヲ提唱シ具体案ヲ練リタリ

偶々盛岡市會議員一條友吉氏ノ渡米スルニアタリ盛岡商工會議所ノ援助ニテ米國桑港日本商工會議所商品陳列所ニ左記ノ出品九點ヲ依托陳列方依頼スルコト、シ三月十八日出發ノ一條氏ニ託シ發送シタリ。是海外ニ當地當業者ヨリ鐵器商品見本ノ發送ノ新記録ヲナスモノナリ

品名	數量	價格	出品人
茶托 (中尊寺模樣)	一組	五、〇〇	鈴木繁吉
茶托 (蓮葉)	一組	一、五〇	築田吉右衛門

發送見本品

繪馬掛	壁爐	三ツ足	小花瓶	赤落シ花瓶	霰模樣鐵瓶	櫻模樣鐵瓶
一個	全	全	全	全	全	全
一、三〇	二、八〇	五、〇〇	三、六〇	二、五〇	八、〇〇	六、五〇
成瀬徳太郎	全	及川四郎	全	照井亦八	有阪安太郎	荻野謙三

以上九點

(5)參考品蒐集ノ件

- 一、當館製作品中廣ク參考トナルベキモノ又ハ參考トシテ價値アリト認メタル館外製品ノ新興金屬製品等ヲ寫真トシテアルバム製作ヲ計畫シテ除々ニ實現シツ、アリ
 - 二、當館製作品中ヨリ或ハ館外製品ノ新舊器具ノ紋樣ニテ參考トナルベキモノヲ手拓シテ保存スルコトトシ貼込帳ヲ作製シ蒐集シツ、アリ
 - 三、金工科員ノ作製シタル圖案ヲ集録シテ當業者ノ參考ニ資スベク實行シ來レリ
- 是實ニ當業者ヘノ圖案配布ノ將來ノ基礎的好事トシテ達成ニ努力シツ、アリ

(六)試作品其他

試作品	三〇一點
作業製品	三三四點
實地指導	三三二件

質 疑 應 答

三九件

圖書依賴調製

四六件

鐵瓶、湯釜、風呂其他ニシテ益々増加ノ傾向ナリ

機 械 利 用

二十二件

主トシテ木炭粉末ノタメ「フレッドミル」ヲ當業者ノ利用ニ便セリ

(C) 染 織 科

(色 染 部)

(一) 地織絹布生地ノ型紙捺染加工試験及製作見本ノ配布

本試験ハ前年度ヨリ繼續セルモノニシテ前年度ニ於テハ

一、型紙ノ意匠及枚數應用ニ關スル配色試験

二、該配色ニヨル染料ノ配合染色試験

三、適當ナル蒸熱時間、溫度、壓力ノ測定試験

等ニ關シテ試験完了セルヲ以テ本年度ニ於テハ尙一步進ンデ本縣製品ノ意匠圖案ニ對スル改良及向上ヲ圖ラ
ンガタメ左記各種製作見本ヲ配布シ

一、型紙捺染製作見本(主トシテ友禪柄)

二、該製作見本ニ對スル構成色彩見本

三、該製作見本ニ對シ意匠圖案ノ見地ヨリシテ配色及配合染色ニ關シ巧拙ニ就イテノ説明及感想書類

四、其他必要事項ニ關スル書類添付

等以上ニ關シテ實地的指導及獎勵ヲ行ヒタリ

(二) 各種染料ニ關スル配合染色試験及製作見本ノ配布

本試験ハ毎年度一回施行シツ、アルモノニシテ一般流行色ノ配合染色ニ關シテ當業者ノ同一試験施行ニ對シ
便宜ヲ與ヘ且亦使用材料及加工方法ノ統一ヲ圖リ斯業ノ合理的能率増進ニ資セムコトヲ以テ本試験ノ目的ト
セルモノナリ

本年度流行色トシテハ左記各種染料ニ付各五十種宛配合染色試験ヲ行ヒ製作見本ヲ配布シ指導セリ

一、直接染料配合染色試験

二、酸性染料配合染色試験

三、直接及酸性染料配合染色試験(型紙捺染用)

(三) 着尺拔染加工試験

本試験ハ着尺拔染ニ使用スル各種拔染劑ノ作用及反應ヲ調査及試験シ製作見本ニ就キ各種拔染劑ノ能力及色
調ノ變化ヲシテ當業者ニ覺知セシムルコトヲ以テ目的トセリ

本年度ニ於テハ普通使用品トシテノ左記拔染劑ヲ以テ試験ヲ行ヒ指導セリ

一、亞鉛末使用着拔染試驗

二、ハイドロサルファイト使用着拔染試驗

三、ロンガリット使用着拔染試驗

次年度ニ於テハ其他ノ拔染劑ヲモ使用シ詳細ニシテ精密ナル試験ヲ施行スベキ豫定ナリ

(四) 毛皮染色試験

本縣ニ於ケル兎皮生産額ハ一ケ年約四萬乃至五萬枚ヲ產出シ國內第一位ニアリ
 然ルニ兎皮ハ何等加工モズ生皮其ノ儘ニテ縣外ニ移出シツ、アル狀況ナリ本館ニ於テハ之レガ加工ノ應用ニ
 ヨリ新興製品タラシムルガタメ及商品價值向上ニ關シテ染色加工ヲ行ヒ以テ利用方面ノ擴張及一層有利的事
 業タラシムルコトハ他面農村ノ現況ヨリシテ有意義ナリト認メタル結果之レガ應用染色試験ヲ施行セントス
 ルモノナリ

然シテ本年度ニ於テハ作業ノ都合上鞣皮及皮革染色ノ豫備試験ヲ行ヒタルニ過ギザルヲ以テ次年度ニ於テハ
 之レガ詳細ナル試験研究ヲ行ヒ其ノ結果ヲ報告セントスルモノナリ

(五) 試作品其他

- 試 作 品 六三點
- 作 業 製 品 一、三八〇點
- 依 賴 加 工 一二〇件
- 機 械 使 用 回 數 二六五回
- 質 疑 應 答 八二件
- 依 賴 調 查 五三件
- 實 地 指 導 八件
- 標本及印刷物配布 二八〇點

(機 織 部)

(一) 綿木綿製織試驗

目的ノ大要 本縣ニ於ケル地織木綿ノ意匠圖案及品質改良ヲ計リ以テ斯業ノ參考資料ニ供センガタメ

試織セルモノナリ

原 料	密 度	織 幅	織 長	織 上 重 量	織 機	用 途
經 糸 緯 糸	打 込	平均三六、五浬	平均一一、二米	平均 四九〇瓦	豐田式力織機	着 尺 地
綿 糸 綿 糸	一〇算	三浬間	平均六二本			

(二) 綿ネル生地製織試驗

目的ノ大要 本縣ニ於ケル地織木綿ノ意匠圖案ノ改良ヲ計ルト共ニ他方之レヲ指導獎勵センガタメ試

織セルモノニシテ且ツ斯業者ノ參考ニ資セントス

原 料	密 度	織 幅	織 上 長
經 糸 緯 糸	打 込	平均三七、三浬	平均一一、二米
綿 糸 綿 糸	一〇算	三浬間	平均五八本

(三)

「ホームズバン」絨製織試験

目的ノ大要

本縣ニ於ケル綿羊ノ飼育頭數ハ逐年増加スルノ傾向アルニ鑑ミ先キニ本館ニ於テハ農村ニ於ケル副業的製品タラシメンガタメ「ホームズバン」ノ製織ニ關シテ獎勵及實地指導ヲ行ヒ來リシ結果最近ニ至リ漸ク農村ノ新興副業トシテ認メラル、ニ至レリ

然シテ現在ニ於ケル製品ノ販路ハ主トシテ東京府方面ナリ

製品販賣數量ニ於テハ本年度ハ前年度ニ比較シ約三倍以上ニ達セリ

茲ニ於テ本館ニ於テハ本縣主要産地ニ於テ産業組合ヲ組織セシメ事業ノ圓滿ナル發達ヲ期シ及製品ノ規格統制ヲ施行スベク現在計畫中ナリ

本年度ニ於ケル「ホームズバン」製織試験左記ノ如シ

織上重量 平均六〇〇瓦

織機 鈴政式力織機

用途 着尺地

原料 經糸 平均 7/1 紡毛糸
緯糸 平均 7/1 紡毛糸

密度 一四、五算

織上幅 平均七三、五浬

織上長 平均六、〇米

織上重量 平均一、三一三瓦

織機 手織機

用途 服地

(四)

平絹製織試験

目的ノ大要

本縣ニ産出セラル、玉繭、屑繭ノ整理加工ニ依ル地織絹布ノ品質向上ヲ計リ之レガ斯業者ノ參考資料ニ供センガタメ試験セルモノニシテ且ツ本試験ハ前年度ヨリ繼續試験ニ依ルモノナリ

原料 經糸 玉糸
緯糸 玉糸

密度 一七算

織上幅 平均三六、二浬

織上長 平均一二、二米

織上重量 平均四五〇、〇瓦

用途 初谷式力織機
着尺地

(五)

白紬製織試験

目的ノ大要

前記載同様ノ主旨ニ基キ試験セルモノニシテ本試験モ前年度ヨリ繼續セルモノナリ

原料 經糸 紬糸
緯糸 紬糸

密	織	織	織	織	用
度	上	上	上	上	途
幅	長	量	機	織	織
三算	平均三六、三	平均一二、二	平均四四、〇	手織	着尺地
一三算	平均六八本	平均四四、〇	瓦	機	

(六) 試作品其他

- 試作 八九點
- 作業製 一二四〇點
- 依頼加工 九八件
- 機械使用回数 二六〇回
- 質疑應答 九〇件
- 依頼調查 四五件
- 實地指導 一二件
- 標本及印刷物配布 一八〇點

七、物産陳列所

秩父宮、同妃兩殿下ニハ騎兵隊御見學ノ爲盛岡市南部伯爵別邸御滞在中當物産陳列所出陳ニ係ル本縣特産

品ヲ御覽遊ハサルヘキ旨御附事務官ヨリ御内命アリタルヲ以テ本館ニ於テハ深ク之ヲ光榮トシ鐵器、紫根染岩手燒、臺燒、秀衡塗、桐細工品、玩具等數十點ヲ選定シ、九月四日三浦館長之ヲ持參伺候シテ台覽ニ供シタルカ、殿下ニハ産業御獎勵ノ思召ヲ以テ左ノ通御買上ヲ賜ハリタルハ洵ニ感激ニ堪ヘサル所ナリ

秩父宮殿下御買上品

- 鐵瓶 貳個 盛岡市肴町 小泉仁左衛門
- 紫根染 壹反 盛岡市新穀町 中村治兵衛

九月十二日愛國婦人會岩手支部總會ニ台臨遊バサルタル總裁 東伏見宮大妃殿下ニハ産業獎勵ノ御思召ヲ以テ同日午前十時ヨリ久保知事ノ御案内ニテ物産陳列所ニ成ラセラレ廣ク縣下ヨリ蒐集陳列セル物産ヲ親シク台覽遊バサルタル上左記ノ通數々ノ御買上ヲ賜ハリタル後御機嫌殊ノ外麗ハシク御退館遊サレタルカ本館ニ於テハ深ク之ヲ光榮トシ職員並看守人一同奉送迎申上タリ

東伏見宮大妃殿下御買上品

- 丸釣燈籠 壹個 盛岡市肴町 成瀬徳太郎
- 紫根染クシヨン 壹個 全 新穀町 中村治兵衛
- 全 風呂敷 拾枚 全 丸 岩手縣商工館木工科
- 全 桐製屏風 壹個 全 内丸 松本源八
- 全 桐製台紙 壹個 全 本町 松本源八
- 全 杉製水差 壹個 全 二戸郡淨法寺村 長壽園
- 全 南製茶 貳拾個 盛岡市川原町 松田岩藏
- 全 豆部銀糖 五拾個 全 紺屋町 村田常吉
- 全 家福餅 壹百個 全 紺屋町 村田常吉

七月三日安達内務大臣、全八日依商工大臣夫レ、丹羽知事ノ案内ニテ物産陳列所ヲ視察サレタリ

(一) 參考品ノ陳列

先進地ヨリ優秀ナル參考品ヲ精選購入シテ物産陳列所參考品室ニ陳列シ嶄新ナル意匠ト優秀ナル技術ヲ示シ併テ内外ノ需要嗜好ノ傾向、産業一般ノ趨勢ヲモ示シ當業者ノ研究ヲ促シテ本縣物産ノ改良ニ資シ兼テ公衆ノ各地物産ニ對スル智識ノ向上ニ資シタリ
尙參考品ノ活用ヲ圖ル爲流行變遷ノ急ナルモノ又ハ特ニ注意ヲ要スト認メタルモノニ付テハ蒐集後速カニ當業者ヲ招致シテ縦覽ニ供シタルガ本年度購入參考品ハ
鐵器 四點 木地類 三一點 玩具 七五點 雜工品 九點ナリ

(二) 委託品販賣ノ狀況

常時縣内名産品ヲ蒐集陳列シテ委託販賣ヲ取扱ヒ以テ生産品ノ實物紹介ニ資シ他而製品ノ改良ヲ圖リテ生産ノ増殖ト販路ノ擴張ニ裨補セリ其ノ取扱狀況左ノ如シ

○昭和五年度中委託販賣一覽

種類別	前年度ヨリ繰越		本年		中		翌年度へ越			
	點數	金額	點數	金額	點數	金額	點數	金額		
金屬品	一、九二八	八、八九七五二〇	三、五九六	九、三三五九二〇	一、七三三	七、〇五四四六〇	三、二六一七〇〇	一、八四四	七、八一七二八〇	
陶磁器	一、七〇八	六八四三八〇	三六八	二六八八〇〇	七	八三〇〇	四九七	一、五七二	六九八八六〇	
漆器	五〇六	三七三六九〇	四七二	八八六〇六〇	五一	一七〇八〇〇	五五〇	六二一九四〇	三七七	四六七一〇

種類別	前年度ヨリ繰越		本年		中		翌年度へ越			
	點數	金額	點數	金額	點數	金額	點數	金額		
織物	七五三	八六二九〇〇	一、五九九	七六三一二〇	五〇六	三一五六八〇	七六一	四七八三二〇	一、〇八五	八三三二一三〇
指物	一、二八七	五、七七九二四〇	一、二六〇	一〇、六八九五〇〇	七三三	七、五六四二八〇	四六三	二、五四九〇九〇	一、三六三	六、三五五三七〇
履物	三二一	一、六八八一四〇	三六一	六八四〇五〇	二五〇	四八一三五〇	一五一	二四一七八〇	一七一	一、六四九〇六〇
醸造品	六二	五三九五〇	五三四	二六六七一〇	八九	六六〇二〇	一七七	九七三二〇	三三〇	一五七三二〇
印刷品	四、〇六〇	七三五〇二〇	四七五	八二五〇〇	一〇〇	九九七〇	九八二	一五二七〇〇	三、四五三	六四五八五〇
化粧品	三三七	二四五五〇	一五五	五二二五〇	一四一	六六二二〇	一五九	七〇四一〇	一八二	一六〇一七〇
飲食品	三、三二七	五八二四九〇	七、六三三	一、五〇三二二〇	一、二四四	三七一三〇〇	五、六〇九	一、二五八七〇	四、〇九六	五八七五四〇
雜工品	三、九一〇	二、九一七五六〇	一、三三三	一、〇五八五〇	三〇三	三六五三四〇	一、一九四	五七〇七五〇	三、七九六	三、〇八七三二〇
竹細工品	三四	七三三八〇	一九六	一〇一七五〇	三	六四五〇	一四六	六三三三〇	八一	一〇三四五〇
玩具	七六	二三〇八〇	二、五一一	五五五八八〇	一八二	七五五二〇	一、九九三	四〇五五〇〇	四一三	九七九四〇
計	一八、一六九	二二、九一四九〇〇	二〇、五三三	二六、一九四六一〇	五、三三三	一六、五五六六九〇	一四、六七	九、八八三五二〇	一八、七五三	二二、六六九三〇〇

○最近五ヶ年委託販賣一覽

年度別	受		入		返		却		賣		却		翌年度へ繰越	
	點數	金額	點數	金額	點數	金額	點數	金額	點數	金額	點數	金額	點數	金額
大正十五年度	二七、六七四	二九、一八一〇四〇	一〇、〇八九	一七、一四三〇七〇	二〇、九二二	一三、六七三七九〇	一五、八五九	一五、六六一四七〇	一七、八二二	一七、四〇四五〇	一六、九九一九九〇	一六、九九一九九〇	一七、八二二	一七、四〇四五〇
昭和元年度	二六、七四六	二五、八一六九九〇	六、二二六	一一、一五三二六〇	一一、九二二	一一、九二二八五〇	一七、八二二	一七、四〇四五〇	一六、九九一九九〇	一六、九九一九九〇	一六、九九一九九〇	一六、九九一九九〇	一六、九九一九九〇	一六、九九一九九〇
昭和二年度	一六、二六三	二〇、九〇七七八〇	二、九二三	九、〇八八二五〇	一五、五四〇	一一、三三三〇九〇	一五、六三三	一五、六三三〇九〇	一五、六三三	一五、六三三〇九〇	一五、六三三	一五、六三三〇九〇	一五、六三三	一五、六三三〇九〇
全三年度														

氣仙郡米崎村
 ◎印刷類
 盛岡市肴町
 全 紺屋町
 全 本町
 全 吳服町
 ◎化粧品類
 盛岡市新穀町
 ◎飲食品類
 盛岡市材木町
 全 紺屋町
 全 加賀野
 全 川原町
 全 大澤川原小路

熊谷 千代吉
 玉山 慶次郎
 熊谷 弘藏
 田口 忠吉
 關谷 圓吉
 關田 英太郎
 中野 金太郎
 池野 治兵衛
 井上 善次郎
 藤島 賢次郎
 及川 勇吉
 村田 常吉
 菊池 直三
 藤原 誠祐
 關口 常吉
 松田 岩藏
 吉田 文吉

全 厨川
 全 東磐井町長坂村
 全 西磐井郡一關町
 全 上閉伊郡附馬牛村
 全 十三日町
 全 六日町
 全 穀町
 全 餌差小路
 全 新穀町
 全 小人町

泉山 豐治
 藤澤 常吉
 金田 新兵衛
 照井 亦八
 松田 福治
 松田 伊八
 藤原 金造
 櫻田 茂八
 小野寺 八
 松原 政治
 佐藤 喜平
 佐藤 壽衛司
 北村 壽衛司
 松原 政治
 泉山 豐治
 藤澤 常吉
 金田 新兵衛
 照井 亦八
 松田 福治
 松田 伊八
 藤原 金造
 櫻田 茂八
 小野寺 八

四五

新馬町
 紺星町
 夕顔瀬片原
 六日町
 ◎履物類
 盛岡市材木町
 全 茸手町
 全 本町
 全 川原町
 全 六日町
 全 三戸町
 ◎醸造品類
 盛岡市肴町
 全 仙北町
 全 茅町
 全 紙町

宮沼 正八
 長澤 竹一郎
 駒井 友次郎
 多田 吉太郎
 淺沼 德三郎
 細川 金九郎
 村田 善九郎
 關井 源三
 及川 藤右衛門
 村川 四郎
 平野 昌八
 八兵衛

全 仙北町
 全 和賀郡黒澤尻町
 全 稗貫郡花卷町
 全 湯本村
 全 九戸郡久慈町
 全 和賀郡澤内村
 全 岩手縣商工館
 全 杉土手

丸樹工所
 青山 隆
 野場 百太郎
 中堰 久吉
 内木 工科
 藤澤 三四郎
 八重 丹藏
 平澤 圓治
 菊池 長吉
 後藤 英二
 藤澤 敬助
 箱崎庄 吉
 横澤酒造店
 金爛サイダー株式會社
 村上 德三
 岩手銘釀株式會社
 丸樹工所
 青山 隆
 野場 百太郎
 中堰 久吉
 内木 工科
 藤澤 三四郎
 八重 丹藏
 平澤 圓治
 菊池 長吉
 後藤 英二
 藤澤 敬助
 箱崎庄 吉
 横澤酒造店
 金爛サイダー株式會社
 村上 德三
 岩手銘釀株式會社

四四

本年度ニ於タル意匠圖案ヲ調製交付セルモノヲ示セバ左ノ如シ

鐵銅器圖案	六五
染物圖案	三五
木工品圖案	三
ボスタ	五三
チラ	一五
レツテ	三三
其他	二四
計	一九八

八、現在職員

館長	地方商工主事	三浦	幸之進
木工科勤務	地方商工技師	小川	文四郎
總務部勤務	商工主事補	佐々木	與惣吉
物産陳列所勤務	全	中村	浩次
總務部勤務	全	佐藤	捨己
全	全 (兼務)	内堀	末次郎
金工科勤務	商工技手	吉川	保正
染織科勤務	全	河井	篤次

九、昭和六年度岩手縣商工館經常費豫算

歳入	歳出	比		備考
		増	減	
物産陳列所勤務	商工技手			北田 徳太郎
木工科勤務	商工技手			松尾 善吉
染織科勤務	商工技手補			山内 幸一
物産陳列所勤務	全			似鳥 久一
染織科勤務	全			神子澤 平三郎
金工科勤務	全			砂子澤 平三郎
工	工習工手			一二名
見習工手	見習工手			七名
看守人	看守人			六名
小使	小使			三名
豫算高	前年度豫算高	比	減	
一三五	一三五			
第一項 使用料	第一項 使用料			
第三目 商工館使用料	第三目 商工館使用料			

科 目	歲 入		比 較		備 考
	本年度 豫算高	前年度 豫算高	增	減	
第一款 作業收入	五、四〇〇	六、〇〇〇		六〇〇	
第一項 作業收入	五、四〇〇	六、〇〇〇		六〇〇	
第一目 物品賣拂代	五、〇五〇	五、六〇八		五五八	
第二目 加工料	三五〇	三九三		四三	
第二款 繰越金	—	—		—	
第一項 前年度繰越金	—	—		—	
第一目 前年度繰越金	—	—		—	
歲入合計	五、四〇一	六、〇〇一		六〇〇	
科 目	歲 出		比 較		備 考
	本年度 豫算高	前年度 豫算高	增	減	
第一款 作業費	五、〇三一	五、五九一		五六〇	
第一目 作業費	五、〇三一	五、五九一		五六〇	
第一目 雜費	四、九九一	五、五三一		五四〇	
第二目 雜費	四〇	六〇		二〇	
歲出合計	五、四〇一	六、〇〇一		六〇〇	

十一、諸 規 則

(一) 岩手縣商工館規程

(大正十四年三月告示第九二號制定
昭和二年四月告示第一七八號改正
四年十一月告示第六四八號改正)

第一條 本館ハ縣下商工業ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本館ニ總務部、技術部及物産陳列所ヲ置ク其ノ分擔事項左ノ如シ

(イ) 總 務 部

- 一、事業ノ計劃及業務ノ功程ニ關スル事項
- 二、生産品ノ調査並ニ商品ノ販路及受引紹介ニ關スル事項
- 三、諸會及講習講話ニ關スル事項
- 四、文書ノ受發整理及保存ニ關スル事項
- 五、會計事務ニ關スル事項
- 六、特許及登錄ニ關スル事項
- 七、其他館務ニ關スル一切ノ總理

科 目	歲 入		比 較		備 考
	本年度 豫算高	前年度 豫算高	增	減	
第二款 豫備金	三七〇	四一〇		四〇	
第一項 豫備金	三七〇	四一〇		四〇	
第一目 豫備金	三七〇	四一〇		四〇	
歲出合計	五、四〇一	六、〇〇一		六〇〇	

(ロ) 技術部

技術部ヲ分チテ金工、染織、木工ノ三科トス

金工科

- 一、鐵瓶ノ製作改良ニ重キヲ置クト共ニ新規ノ鑄鐵工藝品ノ考案試作ニ當ルコト
- 二、徒弟職工ノ養成

染織科

- 一、地織木綿ノ改良ニ專念スルト共ニ南部紬ノ復興ヲ圖リ且ツ世運ニ適應スヘキ廣幅モノ、試織獎勵ニ努ムルコト
- 二、特ニ染色ノ改良ヲ促進スヘキコト

木工科

- 一、桐材ヲ原料トセル内地家具ノ改良ハ勿論現代生活ニ伴フ堅材利用ノ洋家具ノ製作ヲ獎勵シ多量製産ノ範ヲ示シ以テ製品ノ向上ヲ圖ルコト
- 二、雜木及廢材ノ利用研究
- 三、徒弟職工ノ養成

(ハ) 物産陳列所

- 一、商品見本及參考品ノ陳列見本ノ貸付生産品紹介ノ爲委託販賣事務ノ取扱
- 二、一般商品ニ關スル意匠圖案ノ改良指導
- 三、參考圖書ノ貸付及整理

第三條 本館ニ左ノ職員ヲ置ク

館長 一名

主事 一名
 技師 若干名
 主事補 若干名
 技手 若干名
 技手補 若干名

第四條 館長ハ知事ノ命ヲ承ケ本館全般ノ事務ヲ掌理ス

第五條 主事、技師及技手ハ館長ノ指揮ヲ受ケ館務ヲ分掌ス

第六條 主事補ハ館長ノ命ヲ承ケ庶務及會計ニ從事ス

第七條 技手補ハ上司ノ命ヲ承ケ館務ニ從事ス

第八條 物産陳列所ニ物品ヲ寄贈シ又ハ販賣品、見本品、若ハ參考品トシテ出品セムトスル者ハ別記様式ノ

申込書ヲ差出シ館長ノ承認ヲ受クヘシ

第八條ノ二 販賣ノ爲出品シタル物品ノ賣上代金ハ一ヶ月分ヲ翌月十日迄ニ出品者ニ其ノ費用ヲ以テ送金スルモノトス

第九條 第八條出品物ニ對シテハ相當ノ保護ヲ爲スト雖モ盜難其ノ他避クヘカラサル事故ニ依リ生シタル損害ニ付テハ賠償ノ責ニ任セス

第十條 本館物産陳列所ハ左ノ日時中觀覽ヲ許ス 但シ時宜ニ依リ之ヲ伸縮シ又ハ觀覽ヲ停止スルコトアルヘシ

一月三日ヨリ三月三十一日迄) 毎日午前九時ヨリ午後四時迄
 十一月一日ヨリ十二月廿九日迄) 毎日午前九時ヨリ午後四時迄
 四月一日ヨリ十月三十一日迄) 毎日午前八時ヨリ午後四時迄

四大節ハ休館ス
様式

出品申込書

番號	品名	數量	單價	價格	產地	一ヶ年 生産額	備考

右寄贈(販賣)ノ爲出品(見本トシテ出品)(參考品トシテ出品)致度候間御承認相成度候也

年 月 日

住 所

岩手縣商工館長殿

名 氏 印

(二) 岩手縣商工館處務規程 (大正十四年四月訓令乙第一一號 昭和四年十一月訓令乙第四四號改正)

- 第一條 館長ハ館務ノ整理ニ付其ノ責ニ任ス
- 第二條 館長事故アルトキハ館長指名ノ職員之ヲ代理ス
- 第三條 館長ハ左ノ事項ニ關シテハ意見ヲ具シ知事ニ稟申スヘシ
 - 一、規則ノ制定及改廢ニ關スルコト
 - 二、歲入出豫算ニ關スルコト
 - 三、職員ノ進退賞罰ニ關スルコト

第四條 館長ハ左ノ事項ニ關シテハ知事ノ認可ヲ經テ施行スヘシ

- 一、職員ノ縣外出張ニ關スルコト
- 二、館長、主事及技師ノ歸省看護、墓參、轉地療養及除服ニ關スルコト
- 三、傳習生ノ退場處分ニ關スルコト
- 四、物産陳列所貸付規程第一條第二項ニ依ル出願ヲ認可スルコト

第五條 館長ハ左ノ事項ニ關シテハ專決之ヲ施行スルコトヲ得

- 一、傳習生ノ入退場ニ關スルコト
- 二、館長以下ノ館員管内出張ニ關スルコト
- 三、職員ノ歸省看護、墓參、轉地療養及除服ニ關スルコト
- 四、工手、看守人、小使及其他ノ傭人ノ解傭ニ關スルコト
- 五、製作品處分ニ關スルコト
- 六、物産陳列所有料貸付ニ關スルコト
- 七、出品及寄贈品ノ受否ニ關スルコト
- 八、受託販賣ニ關スルコト
- 九、館名又ハ職名ヲ以テ文書往復ニ關スルコト

前項第一號乃至第四號ノ事項ニ就テハ處理後遲滞ナク知事ニ報告スヘシ

第六條 本規程ニ定ムルモノ、外重要ト認ムル事項ニ就テハ其ノ都度知事ノ指揮ヲ請フヘシ

第七條 職員出張シタルトキハ歸館後五日以内ニ復命書ヲ館長ニ差出スヘシ 但シ事ノ輕易スルモノハ口頭ヲ以テ復命スルコトヲ得

前項ノ復命書ハ館長主事及技師ノ管外出張ノ場合ハ知事ニ提出スヘシ

第八條 館長ハ前年度中ニ於ケル事業ノ功程ヲ輯録シ毎年四月迄ニ知事ニ報告スヘシ

(三) 岩手縣商工館傳習規程 (大正十一年三月告示第一三二號制定) (大正十四年三月告示第九七號改正)

- 第一條 本館ニ於テ傳習ヲ受ケント欲スルモノハ傳習生トシテ入場ヲ許可スルコトアルヘシ
- 第二條 傳習生ハ本縣内ニ居住シ身體壯健左記ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス
 - 一、年齡十五年以上ノモノ
 - 二、尋常小學校卒業若ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノ
- 第三條 傳習生タラムト欲スル者ハ第一號書式ノ願書ニ第二號書式ノ履歷書ヲ添へ出願スヘシ
- 第四條 傳習生ニシテ左記ノ各號ノ一ニ抵觸スルトキハ退場ヲ命ス
 - 一、品行方正ナラサルモノ
 - 二、怠惰ニシテ欠勤多キモノ
 - 三、係員ノ訓誡ヲ遵守セサルモノ
 - 四、業務上達ノ見込ナキモノ
 - 五、疾病ニ依リ習得ノ見込ナキモノ
- 第五條 傳習生ニシテ習得ノ成績顯著ナル者ニ對シテハ證明書ヲ交付ス
- 第六條 傳習生所要ノ費用ハ總テ自辨トス
- 第七條 傳習生入場ノ許可ヲ得タルトキハ身元保證人ヨリ第三號樣式ノ身元證書ヲ差出スヘシ
- 第八條 保證人ハ盛岡市ニ一家ヲ構ヘタル成年以上ノ男戸主ニ限ル 但シ館長ニ於テ不適當ト認メタルトキハ何時ニテモ之ヲ變更セシムルコトアルヘシ

保證人轉居若ハ資格ニ異動ヲ生シタルトキハ速ニ届ツヘシ

(第一號樣式) 傳習生入場願

住所、身分、戸主(又ハ戸主ノ子弟姉妹) 姓 名

右今般貴館傳習生規定ニ遵ヒ入場致度候間許可被成度別紙履歷書相添へ此段願出候也 年月日生

年 月 日 右 姓 名 ⑩

(第二號樣式) 履 歷 書

住所、身分 姓 名

生 年 月 日

- 一、何年何月何學校ニ入學同何年何月卒業(又ハ退學)又ハ何々ニ就キ何學修業
- 一、何年何月ヨリ何年何月マデ何々奉職又ハ從事
- 一、何年何月ヨリ何年何月迄何々講習ニ於テ何々修業
- 一、何年何月何々ニ依リ何々ノ賞又ハ罰ヲ受ク

右之通相違無之候也 年 月 日 右 姓 名

(第三號樣式) 身 元 保 證 書

住所、身分
姓 名

右ノ者今般貴場傳習生トシテ入場許可相成候ニ付テハ規則ヲ堅ク相守リ可申ハ勿論本人ニ關スル一切ノ事件ハ私ニ於テ引受可申候也

年 月 日

住所、身分

保護人 姓

名 名

生年月日

岩手縣商工館長宛

(四) 岩手縣商工館陳列所貸付規程 (大正十四年三月告示第一二二號 昭和五年三月條令第五號改正)

第一條 物產陳列所ハ産業又ハ教育上ノ目的ノ爲使用セントスル者ニ其ノ一部(北館)ヲ貸付ス

前項以外ノ目的ノ爲使用セントスル者ト雖知事ニ於テ特別ノ理由アリト認ムルトキハ貸付スルコトヲ得

第二條 物產陳列所ヲ借受ケントスル者ハ第一號様式ニ依ル願書ニ第四條ニ定ムル料金ヲ添ヘ館長ニ提出シ

許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタル者ニハ第二號様式ニ依ル使用許可證ヲ交付ス

第三條 物產陳列所ノ使用ハ午前八時ヨリ午後十時迄トス 但シ館長ニ於テ必要ト認メタルトキハ此ノ限ニ

在ラス

第四條 貸付料ハ左ノ區別ニ依ル

一、晝間(自午前八時 至午後五時) 四圓 二、夜間(自午後五時 至午後十時) 貳圓 三、晝夜(自午前八時 至午後十時) 五圓

第五條 借受人ハ知事ノ許可ヲ得ルニアラサレハ許可證記載ノ條件ヲ變更シ又ハ轉貸スルコトヲ得ス

第六條 燈火ハ本館備付ノ電燈ノ外使用スルコトヲ得ス

若シ止ヲ得サル事故ノ爲他ノ燈火ヲ使用セントスルトキハ豫メ館長ノ許可ヲ受クヘシ燈火ノ費用ハ借受人ノ負擔トス

第七條 借受人ハ其ノ使用ニ因リ館舎其ノ他ノ物品ニ生シメタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

前項ノ賠償金額ハ知事之ヲ定ム

第八條 借受人ハ其ノ使用ニ付館長ニ從フヘシ

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ使用ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

一、本規程ヲ遵守セサルトキ

二、許可證記載ノ條件ニ違背シタルトキ

前項ノ場合ニ於テハ貸付料ハ之ヲ還セス

第十條 借受人ハ使用後直チニ掃除ノ上館長ノ検査ヲ受クヘシ

第一號様式 岩手縣商工館物產陳列所貸付願

一、使用ノ目的

一、使用器具品目

一、使用期間時刻

一、入場料徴收ノ有無

別紙ノ通り

何々

右岩手縣商工館物產陳列所貸付規程ヲ遵守シ使用致度候條御許可相成度料金

圓相添ヘ此段奉願候也

年 月 日

住 所

氏

名 ①

六四

岩手縣商工館長宛

備考 借受者團體ノ場合ハ其ノ組織ノ大要ヲ記シタル書面ヲ添付スヘシ
第二號様式 岩手縣商工館陳列所使用許可證

- 一、使用ノ目的 裏面ノ通
- 一、使用器具品目
- 一、使用期間時刻
- 一、使用出願者住所氏名

右許可ス

年 月 日

岩手縣商工館

(五) 岩手縣商工館工作品賣拂手續

(大正四年四月 訓令乙第六號制定)

(大正十年四月訓令乙第一六號同十四年四月同第一二號改正)

- 一、商工館ニ於テ製作シタル工作品ニシテ賣渡ノ處分ヲナサムトスルモノハ館長其ノ主任職員ト協議ノ上其ノ價格ヲ決定スヘシ
- 二、商工館ハ工作品賣拂臺帳ヲ備ヘ置キ前項ノ品名及價格其ノ他必要ノ事項ヲ記入スヘシ
- 三、前項ノ賣拂臺帳ニ記入シタル品名及價格ハ之ヲ附札ニ寫シ現品ニ添付スヘシ
- 四、買受ヲ希望スル者ニ對シテハ可成便宜ノ方法ヲ以テ賣拂ヲナスヘシ
- 五、賣拂代金ハ總テ現金タルヘシ 但シ代金支拂保證トシテ賣拂價格以上ノ無記名國債證書又ハ勸業債券、興業債券、岩手縣農工債券ヲ差入レタルトキハ此ノ限ニ在ラス此ノ場合ニ在リテハ其ノ國債證書若ハ債券ハ明治四十五年一月告示第九號ヲ以テ定ムル所ニ依リ之ヲ算定スヘシ
- 六、賣拂ニ關スル出納ハ縣出納吏ヲシテ之ヲ行ハシムルヘシ

(六) 岩手縣商工館機械器具使用規程

(昭和二年三月 告示第一七二號)

- 第一條 本館ニ設備スル染織用ノ機械器具ハ本館作業ニ支障ナキ限り本規程ニ依リ縣下當業者ニ限り無料ニテ之ヲ使用セシム 但シ電力又ハ火力ヲ要スル機械器具ヲ使用スル場合ハ別ニ定ムル規定ニ依リ實費料金ヲ徴收ス
- 第二條 機械器具ヲ使用セムトスル者ハ別記様式ノ願書ヲ館長ニ差出シ其ノ許可ヲ受クヘシ
- 第三條 機械器具使用許可ヲ受ケタル者ハ之ヲ他人ニ使用セシメ又ハ館長ノ許可ヲ受ケスシテ其ノ原形若ハ使用ノ目的ヲ變更スルコトヲ得ス
- 第四條 機械器具使用者ハ其ノ使用ニ際シ係員ノ指揮ニ從フヘシ
- 第五條 機械器具ノ使用者ハ其ノ使用ニ關シ參考トナルヘキ事項ヲ其ノ都度館長ニ報告スヘシ
- 第六條 使用中機械器具ニ生シタル損害ハ使用者ニ於テ賠償ノ責ニ任スルモノトズ 但シ不可抗力ニ依ル場合又ハ館長ニ於テ不得止事故ニ因リ生シタルモノト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第七條 館長ハ使用者カ本規程ニ違反シタルトキ取扱不良ナリト認ムルトキ又ハ本館作業上必要アルトキハ何時ニテモ機械器具ノ使用ヲ停止シ若ハ使用ノ許可ヲ取消スコトヲ得

附 則

様

式

使

用

願

本規程ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

一、機械器具ノ名稱

二、使用ノ目的

三、使用ノ期間

右岩手縣商工館機械器具使用規程ニ依リ使用致度候條御許可相成度此段及御願候也

年 月 日

住 所

職 業

氏

名

印

岩手縣商工館長殿

昭昭六年九月十五日印刷
昭和六年九月十五日發行
(非賣品)

發行所 岩手縣商工館

印刷人 盛岡市紺屋町三十九番戸 赤澤 亦吉

印刷所 盛岡市紺屋町三十九番戸 杜陵印刷所

372
456

終